
アルス国際製靴学校研修体験記

(平成29年 8 月28日～11月24日)

研修生 倉 田 哲 也
古 屋 笑

1 研修課題

① パターン作成の基礎知識、技術の習得

指定されたデザイン画に基づきアルス式ルールによるパターンの作成

② 靴の製法と構造、その特徴の知識の習得

セメント、マッケイ、グッドイヤー、ステッチダウン、オパンケ、インジェクション、バルカナイズ、ストローベル

③ 革の種類や性質、適した部位や製品の理解

カーフやステア、メンズやレディース、カジュアルかエレガンスなど適材適所にマテリアルを使い分ける

④ プロトタイプの作成

木型を選び、その木型にあわせてデザイン画を描き、素材、ソールやヒールを選んでパターンを作成する

⑤ 企業訪問、展示会の見学

タンナーや製造工場、企画室、ミカムやリニアペレの展示会、仕上げ塗料を扱う工場を訪問

⑥ 卒業試験（実技、筆記、面接）

3日間に渡って、与えられたデザイン画によるパターンの作成、国際サイズの違いやパターンの基本ルールの確認試験、講師3名、生徒3名のグループディスカッション形式による質疑応答



ストローベルサンプル製作

2 研修内容と日程

8月28日～11月24日（89日間）

第1週：アルスのルールと靴の基本の講義

第2～9週：パターン作成の反復練習

第10～12週：プロトタイプ作成

第13週：卒業試験

週間スケジュール

月曜日から金曜日

9時から17時（13時から14時は昼休み）

毎週月曜日にMONDAY TESTが行われる。

先週の復習にアレンジを加えた応用力が問われる。

土曜日、日曜日、祝日（研修期間中の祝日は11月1日聖人の日のみ）は休校

3 講義内容

① パターン実習

デザインごとに異なるパターンをアルス式のルールに沿って作成する。

パンプス、ダービー、オックスフォードの基本を活かして、サンダル、ローファー、ブーツなども作成する。

さらに応用してモカシン、左右非対称、ブーツなどのデザインが組み合わさり、2つ以上のルールを使用する複雑なものを作成する。

各デザインごとにBASESHELLから異なるスプリングを取り、それをデザインごとの原型として、その都度ペーパーテストと言われる紙のアップパーで木型に被せてチェックする。

毎週金曜日に指定されたデザインの断ち型まで作って封筒に入れて提出。

② 講義

スライドやビデオを見ながら、靴の構



プロトタイプ発表会

造や製法を学ぶ。

木型について、サンダルやパンプス、ブーツなどそれぞれに適した特性を実際の木型や靴を用いて学習する。

週に1度か2度程度、不定期に講義があり国際サイズの比較、インチやセンチ表記の国による違いの確認がその都度行われる。

革の歩留まりの計算方法、皮革によって計算方法が変わり、どうすれば効率よく裁断が出来るかなどを実際のパターンを用いて実測する。

授業は基本的に英語、イタリア語で進められ、25名の生徒がイタリア語が話せる人とそうでない人とで分けられ、私た

ちは基本的に英語のみのクラスだった。

③ 展示会、工場見学

ミカム 休日なので各自で見学。

リニアペレ 講師に引率され、木型企業、タンナーの方の説明を受けた。疑問点についての解説もあり、その後各自気になったブースを自由見学。

ANABELLE 婦人靴メーカー。企画から製造まで1つの建物で作る設備があり（アッパーは外注が主）企画から仕上げ梱包までの流れを見学。

BONAUDO タンナー。ゴートやシープなどの小判がメイン。クロム鞣しもタンニン鞣しも別々のタイコがあり、鞣しから染色仕上げまでの流れを見学。

KENDA FARBEN 染色塗料、接着剤の製造、仕上げ加工場。

実際にプロトタイプで作った作品を染色、2次加工してもらう。

4 研修成果

89日間という長いようであっという間の海外研修で、イタリア、ミラノのアルス国際靴学院に通うことが出来ました。

特に恵まれた環境で学ぶことが出来、不自由さを感じずに過ごせた事が、一番時間が早く感じた要因だと感謝しております。学校と宿舎は同じ建物内にあり、朝準備をしてエレベーターで地下に降りるとすぐに教室でした。授業が終わって慣れない環境でへとへとになっても、すぐに上にあげれば休めるのでどんなに遅くまで作業をしても、次の日まで疲れが残ることがありませんでした。



プロトタイプ着色

そのような恵まれた環境の中でさまざまな国の年代も違うクラスメートたちとともに学び、教えあい、助け合ったり、時にはライバルとして負けん気を持つこともあったので、とても身になった濃い3ヶ月にすることが出来ました。

私たち研修生は共に都立城東職業能力開発センター台東分校製くつ科で型紙を習ったベースがあったので、最初の導入部分がとてもスムーズに入ることが出来ました。クラスメートの大半は家族が靴メーカーを経営している人だったのですが、型紙は初めて作る人ばかりでした。私たちはアドバンテージを生かし、作業を早く進めると、それに合わせて追加課題を出していただき

クラスメートよりも一型でも多く作れるようになって帰国するという目標が出来ました。

目標を持って最初の9週間の反復練習に臨んでいたのも100型くらいのデザイン数を作成することが出来、帰国後の自信に繋がりました。

後半の3週間はプロトタイプで作成で実際にお客様から依頼を受けて出来上がるまでを想像して作成しました。実際の靴にしてみると型紙だけでは見えなかった問題もたくさん見えてきて、型紙の線一本の違いがデザインに与える影響を強く感じました。講師の先生もその線一つに対する妥協を許さない方で、何度か作り直してやっと理想の形にたどり着くことが出来ました。イタリアのものづくりのこだわりを強く感じる期間になりました。

3ヶ月を通して、非常に多くの刺激を受け、靴以外にもイタリアの町、文化に触れることが出来、イタリアの方が靴に対する思い入れが深いと感じる場面が何度もありました。日本でもファッションの一部ではなく生活の一部になるような、それだけ重要な靴を業界全体で盛り上げていければより良い靴づくりの環境も構築されるのではないかと感じました。

今後もこの経験を生かして、東京の革靴業界に貢献できるよう技術と知識をさらに深めてまいりたいと思います。

最後に、このような機会を与えてくださった東京都産業労働局、東都製靴工業協同組合の皆様、派遣研修事業に携わった全ての方に心より感謝申し上げます。



ANABELLE 底付けの様子